

令和五年一月 年頭の挨拶

情報化社会におけるスポーツ・武道及び体育・健康づくりの指導者育成に向けて

国立大学法人 鹿屋体育大学

学長 金久 博昭

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、鹿屋体育大学を応援、ご支援いただき、誠にありがとうございました。

令和四年は、本学が開学四十周年を経て、新たな歴史の創成に向けスタートを切る節目の年であったと同時に、四月以降、全国すべての国立大学法人が、第四期中期目標・中期計画に基づく大学運営を開始する年度でした。また、令和四年にはスポーツに関する国の政策として、第三期スポーツ基本計画(令和四年三月二十五日文科科学省)が提示されました。そのような状況にあるなか、本学は、新たな時代の流れを踏まえ「教育・学生支援」「研究」「国際化」「社会連携・社会貢献」の各領域における長期ビジョン「NIES NEXT30」を策定すると同時に、「スポーツイノベーション推進機構」の設置等、教育・研究活動の体制を整備しました。令和五年は、本学のミッション実現に向け邁進する年となるよう全力をつくす所存です。

第三期スポーツ基本計画では、国民が「スポーツを『する』『みる』『ささえる』」ことを真に実現できる社会をめざすうえで、「スポーツを『つくる』はぐくむ」、「『あつまり』『ともに』活動し、『つながり』を感じながらスポーツに取り組める社会の実現」、「スポーツに『誰もがアクセス』できる社会の実現・機運の醸成」という三つの視点が新たに加えられました。そのなかでスポーツを「つくる」はぐくむを実現するうえでの具体策として、「スポーツ界におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)の導入」が謳われ、情報通信技術を活用することで、スポーツを「する」「みる」について国民に広く展開するとともに、ビジネスモデルの創出やスポーツを「ささえる」の観点からデジタル技術を活用した支援体制ならびにデータの集約・解析の体

制の整備を行うことが具体的施策として挙げられています。

また、近年の情報通信技術の進展に伴う時代の流れを反映し、大学においては入学から卒業までの数理・データサイエンス・AI教育の促進につながるシステムを構築し、文理を問わずAIリテラシー教育を展開すると同時に、自らの専門分野での数理・データサイエンス・AIの応用基礎能力の修得が求められています。本学では令和三年度から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」をカリキュラムに導入しており、令和四年度に文科科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベル」に認定されました。専門教育においても、数理・データサイエンス・AI教育を体育・スポーツ分野に応用する科目を開設しており、それらについては教育プログラムとして体系化したうえで、令和五年度に同認定制度の「応用基礎レベル」への申請を検討しています。

「with コロナ」の状況は、分野を問わず情報通信技術の活用を飛躍的に進展させ、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの領域においても、運動スキルの学習やコーチング・トレーニング指導に対する情報通信技術の相性やデジタル駆動型社会におけるスポーツが持つ新たな可能性を検証する機会をもたらしました。特に、情報を発信する指導的立場にある、あるいはそれをめざす者にとっては、オンライン関連のデータとして含まれる画像や解説の質が問われる状況が生じています。つまりオンライン・オンデマンド型では、曖昧な情報発信は通用しません。より鮮明な画像や見本に加え、対面での指導以上に適切な言語や記述による説明が求められます。本学は、長年にわたり運動スキルの学習やコーチング・トレーニングあるいは健康づくりの指導に関連する研究を推進してきました。今後、それらの成果を活かした情報教育プログラムを開示することで、より質の高い情報発信が可能となる人材を育成することができると確信しています。本年もご指導、ご支援をどうぞよろしくお願い致します。